

地域に根付く「祈り」 歴史を感じ、運氣アップ

山形県内には、最上、置賜、庄内の三つの三十三観音霊場があり、それらの総称が「出羽百観音」。2018年に庄内、19年に置賜の三十三観音の御開帳が行われ、最上の御開帳はコロナ禍の影響で、今年から来年の5月1日～10月31日に延期の上で実施されます。一つの県に三つの三十三観音霊場があるのは本県の特徴。観世音菩薩ぼんぎょうに祈りをささげながら、歩いて健康増進ができる札所をご案内します。



最上三十三観音

二〇二一年 御開帳

御開帳期間(予定)
5月1日～10月31日

最上 三十三観音

南は上山市から北は鮭川村まで、村山・最上地域に番外を含め計34の札所があります。現在の順番が確定したのは江戸時代中期といわれ、最上川の流れに沿って霊場が点在しています。

その中の第12番札所・長谷堂観音(山形市)は、かつて長谷堂城が置かれた「城山」の中腹にあります。「北の関ヶ原」といわれる1600(慶長5)年の「慶長出羽合戦」の舞台となったこともあり、城山には散策路が整備されています。身近な里山登山にもおすすめ。



第12番札所・長谷堂観音



初夏はアジサイがきれいな
長谷堂観音の参道



庄内 三十三観音

1711(正徳元)年ごろ、羽黒山の住職が、33の観音霊場として定めたことが始まり。現在は2市3町に首番、番外を含む35霊場があります。

遊佐町蔵岡にある第19番札所・龍頭寺は、鳥海山信仰とつながりの深い地域の中にあり、鳥海山大物忌神社蔵岡口ノ宮などと共に歴史的な景観を形成しています。毎年春、桜の季節には、周辺を歩いて巡る「蔵岡修験道ウオーク」が開催されています。蔵岡地区の散策に関する問い合わせは蔵岡まちづくりセンター、電話0234(72)2231。



第19番札所・龍頭寺



鳥海山大物忌神社蔵岡口ノ宮



置賜 三十三観音

上杉家の重臣だった直江兼続公の後室・お船の方は、観音信仰あつく、この地に三十三観音の霊場を定めたと伝えられています。置賜三十三観音巡礼のもう一つの楽しみが「花巡り」。花の名所が近くにあり、参拝のついでに足を延ばせる場所があります。例えば、第12番札所・赤湯聖観音(南陽市)は桜の名所「烏帽子山公園」にほど近く、第10番札所・宮の観音(長井市)はあやめ公園に至近。第11番札所・萩生観音(飯豊町)の近くには、どんでん平ゆり園のほか、飯豊町の散居集落を眺められる展望台があるというコースです。



第10番札所・宮の観音



第11番札所・萩生観音

